

第5,69回
(2010.11.8, 15, 12.13)

参考資料の種々とその利用

古賀 崇准教授

■ 第5回：講義 (吉田南総合館 共東41) 参加者30名 配布資料：A4 冊子形状7種、解答例、解答用紙

□ 先行研究を調査する必要性とその方法を理解してゆく上で、レファレンスツールの種類・特徴・使用法を覚える。

○参考資料の活用

- ・ 参考資料の大まかな分類…

＊事典：ことばの概要や背景を把握する。(資料1)

→百科事典：知識体系の構造化／専門家による定説の提示／一般向け

索引から引き、テーマの概要・主要文献・権威者を知ることができる。

引き方の説明(資料2、資料3)、百科事典データベースの検索

→専門事典：より深い知識

＊辞書：ことばの意味や用例を把握する。

→新語辞書：より新しい(時事的な)知識。

＊百科事典データベース：ジャパンナレッジなど信頼性の高い情報が得られるデータベース

○「参考書以外」に注意すべき情報源など

- ・ レビュー／リーディングス

- ・ 資料の種類による質の違い・特徴を知る

(書籍と論文、入門書と教科書と専門書、一般雑誌記事と学術雑誌論文、学術雑誌論文と紀要論文)

○引用などに関するルールとマナー

- ・ 著作権における例外…教育の場での利用・図書館での利用・引用

- ・ DVD(約10分)「情報教育教材シリーズ 情報倫理デジタルビデオ小品集3」

独立行政法人メディア教育開発センター、2008 - 「27. Web貼り付けレポートはNG」

※PCトラブルにより途中停止。残りは口頭で説明。

- ・ 注意点：引用は研究・批評を目的として。メインはあくまで自分の文章

引用部分の明確化(「」やインデント)・出典の明示の必要性

主体的に文章を読むことにより、引用する情報源の取捨選択をする

○演習について

- ・ 予習内容の提示(キーワードとその上位語・下位語・関連語を考える)

- ・ シソーラスとは(資料7)

- ・ 演習の目的(検索式のつくりかた／「漏れ」を気にすること／論文と図書の検索方法の違い)(資料4)

- ・ 演習で扱う分野ごとに教室内で分散してもらい、おおよその人数を把握する。

- ・ 演習当日の注意事項。集合場所・時間・入り口。持ち物(課題用紙を忘れずに)

■ 第6回：演習 (附属図書館3階ライブラリーホール) 参加者44名

□ 図書館で専門百科事典類を中心とする参考図書を用いて、基礎文献を調査し、所在を確認する。

ライブラリーホールにて先生から前回講義の補足および演習の説明(約15分)。その後1階へ移動し演習開始。

●演習内容

- ・ 課題1「テーマを設定して、参考図書を探す」

テーマを設定し、キーワードを挙げる。その際、キーワードの上位語、関連語、下位語を確認する。テーマにアプローチする分野の参考図書(日本語のもの)を選ぶ。(予習)

- ・ 課題2「参考図書を引いて、基本文献を探す」

1階開架の参考図書を索引から引いて項目の掲載ページを確認する。役立つ項目の基本文献を書き出し、1階端末コーナーのKULINEで所在を確認。京大内になければNIIを使用して他機関での所蔵を検索する。

■ 第9回：演習 (学術情報メディアセンター南館203) 参加者42名

□ 信頼性の高い電子データベースで学術雑誌記事を調査し、その論文の入手法を確認する。

先生および補助者からCINiiと演習内容の説明(約30分)。(資料6)

●演習内容

- ・ 課題3「雑誌記事索引(CINii)を使って、論文を探す」

課題2で調べた項目の執筆者をその研究分野の権威者と考え、著者名から論文を検索する。上位語・下位語・

関連語を意識してキーワードからも検索する。被引用件数を参考に論文を選び、雑誌の所在を確認する。
(担当：八木澤ちひろ)